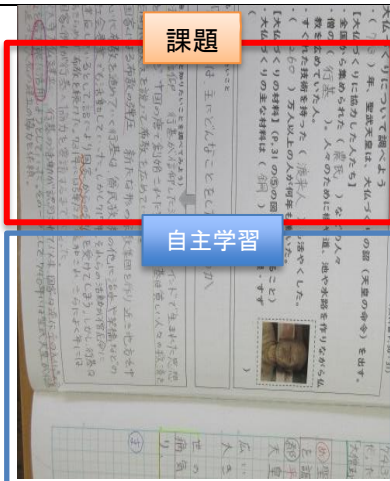


1人1台端末の活用による実践事例

(小・中学校)

学校名	勝間田小学校	実践者名	本位田 茉莉
教科等	社会	学年	第6学年
		授業活用段階 (岡山県版)	Stage 2
育成したい 資質・能力	学習に前向きに取り組む 最後まで聞いて違いや良さを見つける		
単元・内容等	「天皇中心の国づくり」 大仏の大きさや、大仏造営への聖武天皇の願い・大仏づくりに参加した人々の気持ちについて話し合う。		
児童生徒の実態 (端末活用頻度等)	昨年度から話し合い活動やタイピング、プロゲルなど様々なことにタブレット端末を活用している。社会科の学習では、単元ごとに Jamboard を活用した話し合いを行っている。		
活用の概要（使用アプリ名を含む） ※写真も掲載する			
(1) 予習してきたことを確認する 大仏づくりについての課題ワークシートを事前に教科書や資料集などで調べたことを確認する。 ※本時の基礎となる知識としての課題を事前に示しておく。 さらにもっと調べたいことを自主学習として設定する。 (2) 完成した大仏の大きさを体感する 大仏（足の大きさ、全体の大きさを校舎との比較）を体感する。 (3) 開眼式について知る 完成した大仏をお披露目する式が行われたことを確認する。 (4) 本時のめあてを確認する 「大仏を完成させた時の聖武天皇と大仏づくりに参加した人々の気持ちを考え、話し合おう」 (5) 開眼式についてそれぞれの立場で考える 260万人の人が大仏づくりに協力していたが、開眼式には1万人しか参加していないことに注目し、大仏づくりに参加した農民の気持ちや聖武天皇の気持ちをそれぞれの立場になって Jamboard で考えさせる。 (6) 全体で交流する 班で発表者を決め、代表が Jamboard を示しながら発表する。 (7) まとめ・ふり返りをする 「聖武天皇の大仏づくりに、たくさんの人々の協力で進められた。そこには、聖武天皇の人々を救いたいという願いがあった。」今日の学習を通してわかったことや考えたこと、話し合ったことをもとにふり返る。		 	
実践者の手ごたえ		児童生徒の振り返りや反応等	
1時目に、単元計画を児童に示し、学習の見通しを持たせることで、興味を持ったことを自主的に調べる児童がいた。そのことが、話し合い活動で根拠となる意見として役立っている班もあった。グループでの端末活用も役割分担がスムーズに行えるようになった。		(児童の様子) 大仏の大きさや人数のイメージなど、視覚化していたことが、児童の興味関心を引き出すのに役立った。話し合いでは、天皇と農民それぞれの立場に立ち、活発な意見交流ができていた。	